

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス桜梅桃李（おうばいとური）		2025年 2月 19日				
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		日々、お子さんの状況が変わります。クールダウンの部屋や、落ち着く部屋などを確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			職員の配置人数は、適切ではあるが、お子さんのより良い支援を目指して、人数を増やしていきたいと思います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		生活空間は、お子さんにとってわかりやすい構造にしています。視覚優位のお子さんにとって刺激が大きすぎないよう掲示物への配慮を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		活動に応じて、部屋を変える等を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		必要に応じて、個別の部屋の活用も可能です。落ち着ける場所になるよう、防音を兼ねたつい立ての用意もあります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	毎月の会議を活用し、業務改善について意見を出し合うなど、伝え合うようにしています。	業務改善の目標が曖昧でしたので、目標設定を行い、効果を確認していきたいと思います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			保護者の評価を元に、ニーズを把握しながら改善すべきところは改善していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		日々の短時間のミーティングを活用し、業務以外にも考えや思いを伝え合う機会にしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		第三者による外部評価は行っていませんが、関係する機関からの意見なども取り入れていきたいと思っています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4		事業所内での定期的な研修をはじめ、外部研修にも積極的に参加できるよう進めています。	外部研修を紹介しながら、職員自身のスキルアップにつなげていきたいと思っています。参加しやすいよう費用の一部負担も検討中です。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムは、ホームページたりタリコのサイトに公表していますが、定期的に更新しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		お子さんや保護者のニーズや課題は何かを把握するよう、様々な機会を捉え今後も努力していきます。	アセスメントを実施し、次のステップへの指標などを提示していけるよう、今後は取り組んでいきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		関係者会議や支援会議・ケース会議、日々のミーティングなどを活用し、全職員スタッフが共通理解するよう努めています。	短時間勤務者も同じ情報が伝わるよう、個別に対応しています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		計画に沿った支援を行うことを基本にしていますが、お子さんの状況によって変更する際には、理由や内容を共通理解して取り組んでいます。	支援計画の具体的な取り組みなど、見直しを行い、お子さんに合った内容を改善していきたいと思っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2	皆が活用しやすい書式を使用しています。	記述式の書式のため、まとめることに時間がかかることが多いです。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		5領域の本人支援（家族支援、移行支援、地域支援・地域連携）の観点を踏まえて、支援計画を作成し、合わせて具体的な内容も記載してきました。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1		勤務の時間帯が違ってしまい、一緒に立案が出来にくい状況にありますが、事前に意見を出してもらうなど、全員の参加で作成したいと思います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		固定化しないために、お子さんの様子について共通理解しながら「どんな方法が良いのか」改善を図っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		お子さんの状況は、日々変化していますので、全職員で共有しより良い支援を実施できるよう努力しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎日、開始前には短時間のミーティングを行い、利用者さんの様子や送迎コース、支援内容などを確認し、共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		その日の支援内容が良かったのか、改善することはないか等の他に、けげ・体調・忘れ物・虐待の有無、身体拘束等も確認しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		支援内容は、必ず記録を取り保護者へ渡しています。また、コピーし保存しています。改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		6ヶ月ごとにモニタリングを行っています。関係者会議を開催し、計画の見直しや今後の取り組む目標なども検討しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		4つの基本活動を複数組み合わせ、計画を作成し、支援を行うよう努力しています。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		お子さん自身が、「自己決定をする力」の向上を目指し、集団遊びや活動など様々な要素を取り入れながら支援を行っています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		各種会議には、基本的には管理者が参加しています。その内容を全職員に伝達しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		障害福祉をはじめ医療との連携も取り組んでいます。	保育園との連携には、特に力を入れていませんでした。今後は、必要に応じて連携を図っていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		学校だよりや先生、保護者からのお知らせ等で把握していますが、緊急時の連絡体制を再度確認していきます。	下校時刻が変わる時には、事前に確認が出来ずに遅れてしまうこともあったことから、事前に確認するようにします。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3		必要に応じて連携は行っていますが、情報の共有や相互理解の観点からも積極的に行っていききたいと思います。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	1	お子さんが転出をして、事業所がわかるときには、連携をしながら情報の共有をしています。	卒業後に移行する場合には、情報の提供も行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			必要に応じて、連携をとりながら助言を受けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		感染症対策の一環として、交流などを控えていましたが、落ち着きましたら他の団体との交流も進めたいと思います。
33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4		必ず参加できるよう、事業所内で勤務の調整をしながら行っています。	参加した内容等は、全職員に伝達しています。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳を活用したり、送迎の時に直接お伝えしたりしながら、共有しています。内容の応じて直接伝え合うことも大事にしています。		

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3		家族の対応力の向上に役立つよう、今後も情報提供や研修会なども検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		利用開始前に、保護者負担金の詳しい内容やその根拠、支援プログラム等も説明しています。	お子さんの状況に応じて、今後も丁寧な説明を行っています。保護者からの意見も傾聴しより良い支援につなげていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		利用開始前には面談をしながら、お子さんの詳しいことをお聞きし、支援内容や配慮事項を確認しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		同意を得ていますが、今後も変更等があった時には、作成の見直しも行っていきます。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			必要に応じて、面談や訪問をしながら助言などを行っています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者を開催し、保護者同士の交流を図っています。	参加できない方もいますので、複数回実施したり、開催内容をお知らせするなど行ってきたいと思います。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		いかなる内容の苦情であっても誠実に対応しています。今後も基本姿勢は変わりません。	大小に関わらずに情報が上がった時には、誠実に対応していきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		活動の内容などをブログに月2回程度掲載しています。	活動内容や出来事、お知らせなどもブログに掲載していますが、個別の連絡はメールや連絡帳を活用しています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		記入された個人情報は、施錠できる場所に保管しています。	紙でも個人情報が今後は増える傾向にありますので、その管理を今後検討していきます。データで保存するなど。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		意志の疎通は、お子さんであっても大事なことと考えていますし、言いにくいことがあれば友だちを介するなどの方法を伝えていきます。	特に言いにくいことがあった時の伝え方は、慎重にかつ誠実に行います。記録を取って複数の職員で一丸となっておこないます。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	地域の役員の方が見学にお呼びしましたが、今後も呼びかけていきます。	様々な感染対策の面から、積極的に呼びかけははみませんでした。広報活動には力を入れていきたいと思っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			各種マニュアルは作成していますが、保護者にとってわかりやすい内容のマニュアルとなるよう、改善していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		お子さん一人ひとりの応じた訓練を通して、意識向上が大事と考えています。（例えば、優位性を考慮した安全な横断方法など）	現実的なBCPとなるよう改善しています。災害発生の備えて、訓練を実施していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		利用前には保護者と面談し、服薬や体調面の確認を確実にしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アレルギーの有無は、必ず確認しています。有りの場合には、アレルギーの内容、対処法を確認し行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		自然災害や事業所内の安全面など、意識向上は大事であると考え、現実に即した訓練・体験などを行っています。	防災センターで地震の体験や、火災・煙・強風からの避難法・緊急通報の仕方・消火器の扱い方などを学びましたが、全員が参加できるよう複数回を実施したいと思います。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		「見やすい・わかりやすい」内容となるよう、改善していきます。	年度初めに、「災害が発生した場合の対応」表を全家庭に配布します。年度途中での利用者には、契約時に渡して理解を求めていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		危険なことがあった場合や、危なかったこと、気を付けた方がよいことなど未然の対応もヒヤリハットを活用し全職員で周知しています。	他人事にならないよう、また再発防止の観点からもヒヤリハットの用紙に記載し、全職員で状況を確認しています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		「いかなる場合でも虐待は許されない」を全職員で確認しています。事業所内に潜むストレスなどを回避するために研修や何でも言える雰囲気を作り上げています。	外部研修にも積極的に参加を呼びかけています。虐待防止マネージャーの活躍も図っていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		適正な身体拘束について、その内容やどんな場合かを確認し保護者と同意書を交わしていますが、安全を最優先で行っています。	事業所内には「身体拘束排除宣言」を掲げ職員の意識向上を図っています。